

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査結果

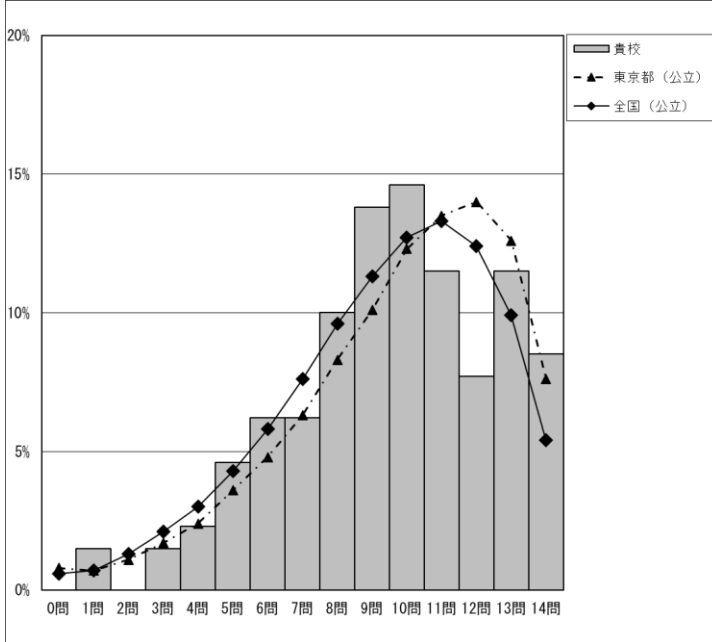
江戸川区立下鎌田小学校

I 学力調査結果

■ 国語

	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本校	9.6 / 14	67.0	10.0	2.9
東京都(公立)	9.8 / 14	70.0	10.0	3.1
全国(公立)	9.4 / 14	66.8	10.0	3.0

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



国語の平均正答率は、都平均を 3% 下回っているものの、全国平均は上回っている。

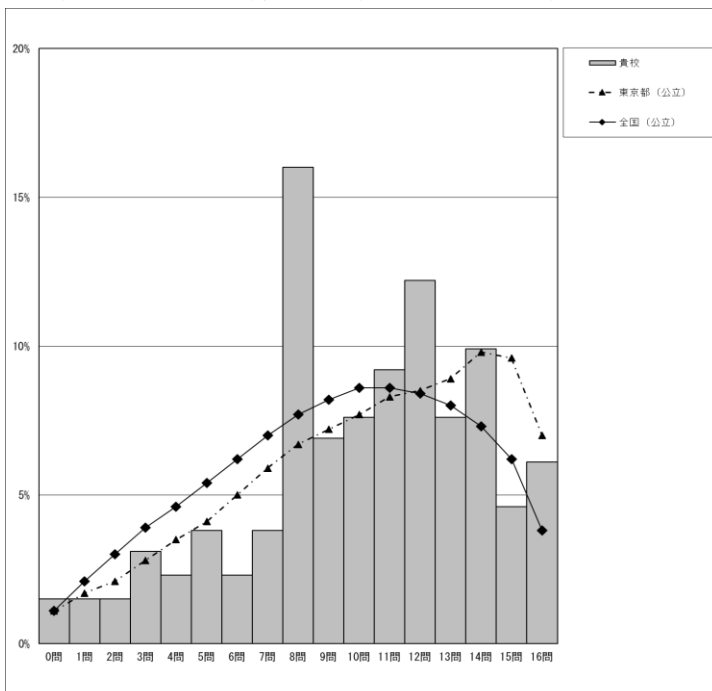
設問ごとにしてみると「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができかどうかをみる」設問に対する正答率が全国と比べ 6.7%、都平均と比べ約 5.9% 低くなっている。

「複数の情報を統合して自分の言葉で説明する」「条件を的確に捉える」「得られた情報を要約する」ことの指導の充実を図っていく必要がある。

■ 算数

	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本校	10.0 / 16	62.5	10.0	3.8
東京都(公立)	10.2 / 16	64.0	11.0	4.1
全国(公立)	9.3 / 16	58.0	10.0	4.0

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



算数の平均正答率は、都平均を 1.5% 下回っているものの、全国平均は上回っている。

設問ごとにしてみると、「平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる」という設問に対する正答率が都平均と比べ約 6%、全国平均と比べても約 3% 低くなっている。また、全国的に課題となっている図と文章から必要な情報を抜き出して問題を解決する設問に対して、本校においても課題となっている。

演算を単なる処理で終わらせるのではなく、具体的な場面を取り上げるなどして、演算結果について量的な実感をもって振り返ることができるよう各学年で指導するとともに、問題場면을工夫し、情報過多・不足の問題から必要な情報を考える取組を意図的に取り入れる必要がある。

2 意識調査

全国基準と比較して「国語・算数の学力」、「国語・算数に関する意識」、「主体的な学習の調整」については肯定的な回答が多くなっている。また、「理科の学力」、「理科に関する意識」「向社会性」については肯定的な回答の割合が相対的に低くなっている。

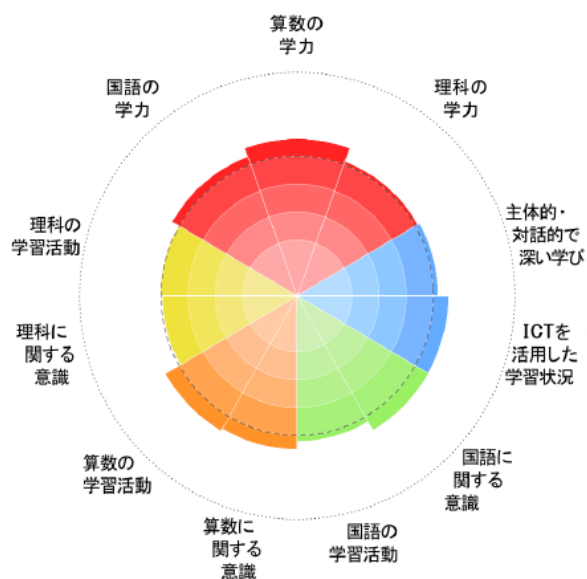
「向社会性」について設問単位で肯定的な回答の割合が著しく低かったものではなく、「人が困っているときは、進んで助けていますか」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問が少しずつ、全国平均より下回った結果となっている。

「算数への関心等」について肯定的な回答の割合が高かった設問としては、「算数の勉強は好きですか」、「算数の勉強は大切だと思いますか」、「算数の授業の内容はよく分かりますか」、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という算数への関心等に関する4つの設問すべてとなっている。本校では、学力向上への取組の一環として昨年度、算数科において「主体的に学習に取り組む子の育成 一確かな学力の定着を目指して一」、今年度「考えることを楽しむ児童の育成―「分かった」「できた」と実感できる授業づくりを目指して―」をテーマに校内研究を進めており、その成果が表れた結果と考察される。

令和7年度全国学力・学習状況調査 全国学力・学習状況調査結果チャート 江戸川区立下鎌田小学校

【教科を中心とした学力・学習状況】

(全国基準)



【その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）】

(全国基準)

